リーディングDXスクール事業 【実践事例】

京都市立唐橋小学校（京都府）

【取組内容⑤】 研究成果の積極的な全市発信

- 市内全ての小・中学校の**GIGAスクール推進主任を対象にオンデマンド型の動画配信研修を実施**。
  本校を含むLDX指定校（京都市：小２校、中１校）が取り組んでいる研究成果を全市発信した。
- 併せて、LDX事業の開始時に指定校3校合同で実施したキックオフ研修会の内容についても、講演者の許諾をいただいたうえで全市公開し、他校における次年度のICT活用に向けた意識付けに活用いただけるようにした。

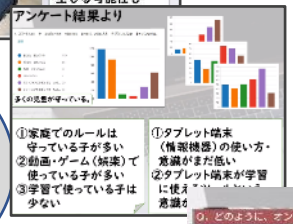
学習面・校務面などあらゆる場面での一人一台端末の活用

端末の文房具化が進み、子どもが主語となっている学びの姿をたくさんの写真を使って紹介。

教員研修も「自ら学ぶ」。
個別の動画視聴やクラウド上での意見交流など、ICT活用を通した教員研修の充実についても紹介。

地域や家庭と協力し合って行うデジタルシティズンシップ教育

積極的な端末活用とともに故障やトラブルの可能性も増加。
LDX事業の指定を受け、特にデジタルシティズンシップ教育に重点的に取り組むこととなった経過を説明。



研究開始時に児童アンケートによる客観的な実態把握を行ったことの紹介。

南大内小　唐橋小

研究成果の全市発信

八条中

人権参観懇談会当日の授業映像も交え、児童が情報機器とうまく付き合う方法を主体的に考える授業の様子を紹介。

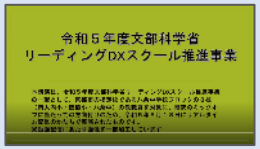
テーマは「今までの自分を超える」。
ICTを活用した授業計画(PLAN)→授業実践(Do)→生徒アンケートや公開授業・研究授業での評価・改善(Check)→次の授業に向けた課題提示(Action)のサイクルによる全教職員のスキルアップの実践を紹介

教科の枠を超え、全ての教員がICT活用の実践を交流し、授業改善につなげる

外部講師によるご講演もアーカイブ配信で取組を波及！

R5.5月にLDX指定校の3校合同キックオフ研修会を実施。研究の開始にあたり多くの示唆をいただけました。
ご講演内容については、許諾をいただいたうえでアーカイブ配信を実施し、指定校以外にも積極的に取組を波及させています。

岐阜聖徳大学　教授　玉置崇　先生
「学校を元気にするGIGAスクール構想であるために」

（ご講演の主な内容）
◆GIGAスクール構想を理解する
・なぜ一人一台端末なのか
・なぜ高速ネット回線なのか
・なぜクラウドなのか
◆授業における一人一台端末の活用例
・働き方改革
・個別最適な学び
・つながることの容易さと拡大
・学習の自己調整、振り返りの大切さ
◆情報モラル教育の次の段階を知る

京都市教職員以外もご覧いただけます
右図もしくは
こちらをクリック